

4. 県内の医療体制

4

県内の医療体制

(1) がん診療連携拠点病院および地域がん診療病院

■ がん診療連携拠点病院

全国どこに住んでいても、がんの状態に応じて適切ながん医療が受けられるように設置された病院です。以下の項目を推進しています。

- ① 専門的ながん診療
- ② 専門的な知識や技能を持つ医師の配置
- ③ 地域の医療機関や医師との連携と協力体制の整備
- ④ 患者さんへの相談支援と情報提供
- ⑤ がん登録など、質の高いがん医療

➡ P28

■ 地域がん診療病院

がん診療連携拠点病院がない医療圏に、都道府県の推薦をもとに国が指定した病院です。拠点病院と連携しつつ、専門的ながん医療の提供、相談支援や情報提供を行っています。

➡ P28

(2) がん診療を行っている医療機関

沖縄県医療計画では、国の指定を受けたがん診療連携拠点病院をはじめ、手術療法、化学療法または放射線療法を組み合わせた集学的治療等を実施する医療機関を掲載していますので、沖縄県ホームページをご覧ください。

➡ P28、P29



医療施設一覧(沖縄県保健医療部医療政策課ホームページ)

<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/iryoseisaku/medicalfacilities3.html>

※その他のがんの専門施設については、
がん相談支援センターにお問い合わせください。➡ P10



コチラもCheck! 『がんになったら手にとるガイド』

- ➡ 「療養生活を支える仕組みを知る」
- ➡ 「地域のがん診療の連携の仕組みを知っておく」

(3) 希少がん和小児がんの診療病院

希少がんとは、発生の稀ながんを示す言葉です。沖縄県内では、希少がんの診療経験が豊富な琉球大学病院での診察が推奨されます。希少がんの詳しい情報に関しては、国立がん研究センター希少がんセンターのサイトをご覧ください。

小児がんは大人のがんに比べて、患者の数が少なく、こちらも診断や治療の経験が豊富な医療機関での診察が推奨されます。沖縄県内では琉球大学病院と沖縄県立こども医療センターがその医療機関にあたります。診療所を含むどこの小児科で最初の診断がされても、前述の2つの病院に紹介されることが確立されていますので、ご安心ください。

国立がん研究センター希少がんセンター ➡ P24

国立がん研究センター小児がん情報サービス ➡ P25



いったーあんまー まーかいがー

べーべーぬ 草刈いが

べーべーぬ まさ草や

(いったーあんまー まーかいがー)

4

県内の医療体制

(4)がん診療を行っている沖縄県内の医療機関

4

県内の医療体制

病院名	大腸がん	肺がん	胃がん	乳がん	子宮頸がん	肝がん	胆道がん	膵臓がん	食道がん	前立腺がん	甲状腺がん	血液腫瘍	放射線療法
県がん診療連携拠点病院													
琉球大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域がん診療連携拠点病院													
沖縄県立中部病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
那覇市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域がん診療病院													
北部地区医師会病院	○	—	○	○	—	○	○	○	○	—	○	—	—
沖縄県立宮古病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
沖縄県立八重山病院	○	○	○	—	○	○	○	○	○	—	○	○	—
その他の医療機関													
沖縄県立北部病院	○	—	○	—	—	—	○	○	○	—	○	—	—
たいら内科クリニック	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
KIN放射線治療・健診クリニック	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
中頭病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中部徳洲会病院	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—
ハートライフ病院	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	—
国立病院機構 沖縄病院	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
浦添総合病院	○	○	○	○	—	○	○	○	○	—	○	—	—
同仁病院	○	—	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—

4

県内の医療体制

病院名	大腸がん	肺がん	胃がん	乳がん	子宮頸がん	肝がん	胆道がん	膵臓がん	食道がん	前立腺がん	甲状腺がん	血液腫瘍	放射線療法
宮良クリニック	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マンマ家クリニック	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
おもろまちメディカルセンター	○	○	○	○	—	○	○	○	○	—	○	—	—
大浜第一病院	○	—	○	—	—	○	○	○	—	—	—	—	—
沖縄赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
沖縄協同病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—
那覇西クリニック	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
与那原中央病院	—	—	—	—	—	—	○	○	—	—	○	○	—
南部医療センター・こども医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
沖縄第一病院	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—
南部徳洲会病院	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	—	—	○
友愛医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—
宮古島徳洲会病院	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石垣島徳洲会病院	○	—	○	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—

出典：医療施設一覧（沖縄県保健医療部医療政策課ホームページ）
<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/iryoseisaku/medicalfacilities3.html>

医師の異動等で対応できるがん種や治療の範囲が変わる可能性もあります。詳しくは各病院にお問い合わせください。

セカンドオピニオンおよび実施施設の連絡先 → P22
 医療機関の連絡先 → P94

(5) 離島とがん ～通院治療の選択～

■ 宮古島、石垣島以外の離島で暮らす方へ

地元の医療機関でできることが限られているため、心配も大きいと思います。しかし、いまは必要であれば、すみやかに地元の医療機関から必要な医療機関に紹介されます。特に前述した拠点病院（含む診療病院）は、医療だけでなくさまざまな相談に応じることができますので、離島の患者さんは積極的に利用することをおすすめします。

また、主な治療の終了後は、治療した医療機関だけでなく、地元の医療機関でも経過観察をすることが大切です。必ず地元の医療機関でも、がんの治療後の経過観察をしてもらうようにしましょう。

飲み薬での薬物療法（抗がん剤、ホルモン剤など）が必要なときは、地元の医療機関でも治療継続が可能です。主な治療を行った医療機関の医師に、地元の医療機関でどのように治療を継続していくかを相談してください。

■ 宮古島、石垣島で暮らす方へ

地域にはそれぞれ、県立宮古病院と県立八重山病院があります。希少がん以外のがんの治療が可能ですので、がん患者の7～8割の治療を行うことができます。また、希少がんでも、主な治療を行った病院との連携により、ほとんどの場合は治療の継続や経過観察が可能です。

さらに、前項でも述べましたが、より自宅に近い医療機関での経過観察や飲み薬での治療継続が可能ながあります。それぞれの病院の医師に地元の医療機関でどのように経過観察、または治療を継続していくかを相談してください。

* 離島におけるがん医療については、本冊子以外に、「がん患者さんのための療養場所ガイド」があります。離島ごとの詳しい情報が記載されていますので、ご参照ください。県内のがん診療を行っている医療機関や離島・へき地診療所で配布しています。

離島やへき地に住む人向けの制度を知る [👉P87](#)

沖縄県 がん患者さんのための療養場所ガイド シリーズ全8巻



1

竹富町
与那国町編



2

石垣市編



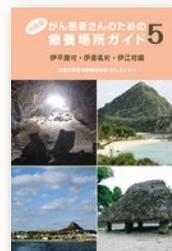
3

多良間村編



4

宮古島市編



5

伊平屋村・伊是名村
伊江村編



6

本島北部編
国頭村・大宜味村
東村・今帰仁村
本部町・名護市



7

本島周辺の離島村編
粟国村・渡名喜村
座間味村・渡嘉敷村
北大東村・南大東村



8

久米島町編



体験談

緩和ケア ～痛みを和らげる治療について～

1年前に、肺腺がん（Ⅳ期）と診断されました。左の股関節と足首に転移し、骨が溶けてしまったため、激痛に歯を食いしばるという状態でした。

病院内のポスターなどで「緩和ケア」という言葉を知ってはいました。しかし「緩和ケアは、楽にこの世を去るための処置」という先入観を持っていました。私は「治る。生きる」と決めていましたので、緩和ケアには縁がないと考えていました。

肺がんの治療は、まず足の骨に放射線を当てる、というところからスタートしました。「痛みを我慢したからといって、病気がよくなるわけではないから」という主治医の説明でした。

放射線療法は功を奏し、地面につけることさえ困難だった足を2週間後には動かせるようになっていたのです。それと同時に希望がわきました。「あれほどの痛みから解放されたのだから、この先の治療もきつとうまくいく」と。

放射線治療をすすめたとき、主治医は「緩和ケア」という言葉を使いませんでした。私が緩和ケアに対してマイナスなイメージを持っていると察していたからかもしれません。しかし、このような体験をしたいま、緩和ケアが治療の大切な一部だと理解できます。痛みがないというだけで、病気や治療に向き合う心構えが、大きく変わります。緩和ケアを積極的に受けて痛みを取りのぞき、にこにこ笑って治療を受けようじゃありませんか。

(30代 男性)

痛みをガマンしても
病気がよくなる
わけではありません



コチラもCheck! 『がんになったら手にとるガイド』

➡「緩和ケアについて理解する」



第2部

よりよい療養生活をおくるために

